

## 2010年チリ中部地震津波の日本沿岸における緊急調査結果

### Rapid-response field surveys of the 2010 Chilean earthquake tsunami in Japan

高橋 智幸<sup>1\*</sup>, 2010年チリ中部地震津波の日本沿岸調査グループ<sup>2</sup>

Tomoyuki Takahashi<sup>1\*</sup>, Field survey team of the 2010 Chilean earthquake tsunami in Japan<sup>2</sup>

<sup>1</sup>秋田大学工学資源学部, <sup>2</sup>-

<sup>1</sup>Akita Univ., <sup>2</sup>-

2月27日にチリ中部沿岸で発生したMw8.8の地震に伴う津波が太平洋を伝播して約22時間後に日本へ来襲した。我が国沿岸におけるこの津波の影響を把握するために、北海道から沖縄までの太平洋沿岸において現地調査を実施した。主には痕跡を用いた津波高の測量や来襲状況などの聞き取り、検潮記録の確認などをおこなった。津波の規模が比較的小規模であるため、津波の痕跡や目撃者の記憶の消失が速いことと、人的被害が発生していなかったことを考慮して津波到達の翌日から調査を開始した。

各地域での主な調査結果を以下に示す。(1)北海道地方：浦河から花咲に至る地域では津波が岸壁を越えていたが、浦河より西方および根室より北方では浸水は見られなかった。特に花咲では1.1 mの津波高が発生していた。(2)東北地方：久慈湾、宮古湾、山田湾、大槌湾、唐丹湾、広田湾、気仙沼湾、女川湾で調査を実施した。気仙沼湾では湾口付近では0.8 mであったが、湾奥に向かうにつれて徐々に増大し、鹿折川河口付近では1.5 mとなる津波高の分布を示した。また、鹿折川や大川で河川遡上があり、大川では河口から1 km上流でも0.9 mの津波高が確認された。(3)関東地方：福島県いわき市から千葉県館山市において調査を実施した。津波痕跡高の分布は平均的には1 m前後であったが、茨城県鹿島港では1.6 m、千葉県飯岡漁港では1.5 mであった。その発生時刻はおおむね28日15時~18時頃であった。(4)紀伊半島：和歌山県内の7市町と三重県内の3市町で調査を実施した。津波高は紀伊半島南端の串本町(1.0 m)から北上するにしたがって小さくなる傾向を示した。(5)四国地方：須崎験潮所で19時49分に1.30 mの最大波を記録し、吉野川や四万十川では河口から10 km以上遡上したことが水位記録から確認された。(6)九州地方：鹿児島県東部の志布志港では19:56に予想よりも大きい1.1 mの津波が記録された。志布志港ではこの時刻と同程度の水位が、大潮の満潮と津波が重なった18時過ぎに現れ、船着き場が一時冠水した。(7)沖縄地方：沖縄島および久高島において調査を実施した。いずれも東海岸に位置する港湾部で、1 m前後の津波高が推定された。

なお、調査を担当した「2010年チリ中部地震津波の日本沿岸調査グループ」のメンバーは次の通りである。高橋智幸<sup>1)</sup>、朝倉壘<sup>1)</sup>、宮城邦昌<sup>2)</sup>、近藤誠司<sup>3)</sup>、柿沼太郎<sup>4)</sup>、鈴木進吾<sup>5)</sup>、城下英行<sup>6)</sup>、藤井雄士郎<sup>7)</sup>、村嶋陽一<sup>8)</sup>、大年邦雄<sup>9)</sup>、松崎義孝<sup>10)</sup>、原田賢治<sup>11)</sup>、安藤亮輔<sup>12)</sup>、小松原純子<sup>13)</sup>、小松原琢<sup>13)</sup>、行谷佑一<sup>12)</sup>、堀川晴央<sup>12)</sup>、宮地良典<sup>13)</sup>、松山昌史<sup>14)</sup>、吉井匠<sup>15)</sup>、石辺岳男<sup>16)</sup>、今井健太郎<sup>17)</sup>、都司嘉宣<sup>16)</sup>、西山昭仁<sup>16)</sup>、原田智也<sup>16)</sup>、池間仁子<sup>18)</sup>、今村文彦<sup>18)</sup>、後藤和久<sup>18)</sup>、中野晋<sup>19)</sup>、奥村与志弘<sup>20)</sup>、西村裕一<sup>21)</sup>、中村有吾<sup>21)</sup>、嶋原良典<sup>22)</sup>、藤間功司<sup>22)</sup>、嶋原康子; 1)秋田大学工学資源学部, 2)元・石垣島地方気象台, 3)NHK, 4)鹿児島大学大学院理工学研究科, 5)京都大学防災研究所, 6)京都大学大学院情報学研究科, 7)建築研究所国際地震工学センター, 8)国際航業株式会社, 9)高知大学農学部, 10)港湾空港技術研究所, 11)埼玉大学大学院理工学研究科, 12)産業技術総合研究所活断層・地震研究センター, 13)産業技術総合研究所地質情報研究部門, 14)電力中央研究所地球工学研究所流体科学領域, 15)電力中央研究所環境科学研究所水域環境領域, 16)東

京大学地震研究所, 17)東京大学大学院情報学環/地震研究所, 18)東北大学大学院工学研究科, 19)徳島大学環境防災研究センター, 20)人と防災未来センター, 21)北海道大学大学院理学研究院, 22)防衛大学校システム工学群建設環境工学科.

キーワード: 2010年チリ地震津波, 緊急調査, 太平洋沿岸, 聞き取り調査

Keywords: the 2010 Chilean earthquake tsunami, rapid-response field surveys, the Pacific coast in Japan, witness account